

子どもの医療を支援する



- 10周年に寄せて
- 平成30年度事業 研究助成金・海外留学フェロシップ募集要項 優秀論文アワード選考要項
- 海外留学体験記

(詳細2~3面)

このたびの西日本豪雨及び北海道胆振東部地震により被災された皆様に、謹んでお見舞い申し上げます。

一人でも多くの方々のご無事をお祈りするとともに、避難生活など困難な状況に遭われていらっしゃる方々の心中をお察いたします。

一日も早く安心して過ごせる日々を取り戻せますよう、被災された皆様の生活が復旧されることを心よりお祈り申し上げます。

特別寄稿

子どもを生物面・心理面・社会面から評価し、支援するために



国立成育医療研究センター
理事長

五十嵐 隆

2015年のわが国の乳児死亡率は1.9で、世界で最も低値です。健康、教育、栄養を総合的に評価するThe Child Development Index 2012でも、わが国は世界一でした。しかしながら、わが国の子どもの心理面・社会面での健康問題については実態が明らかでなく、適切な取り組みも行われていません。

わが国では乳幼児健診や学校健診が行われています。しかしながら、欧米に比べ乳幼児健診の回数は少なく、また、一人あたりの健診時間が極めて短い学校健診が行われています。その結果、子どもを心理面・社会面から評価し、問題を把握することができません。子どもの健康には貧困、住環境、親の学歴、喫煙・アルコール摂取、育児への関わり方などの社会的決定因子が大きく影響します。

米国では、1990年から乳児期に7回、12-30ヶ月に5回の、3歳から21歳までは年1回の個別健診が行われています。一人に要する時間は約30分で、健康保険から最大で150ドルが医療者側に支払われます。米国での健診の特徴は、身体的診察、成長・発達の評価・指導、予防接種などの他に、生活習慣、親子関係、学校生活など子どもを取り巻く環境の実態を聴取し、子どもの心身の健康に影響を与えるリスクを評価することにも主眼が置かれます。特に重要な点は、次の健診までに子どもに起こりうる問題や保護者が悩んでいる事象を具体化し、対応方法を説明し、助言することにあります。米国のかかりつけ医は、子どもにとって保護者や学校の先生以外に自分が困っている問題について相談出来る存在になっています。

わが国においても子どもへの心理面・社会面からの個別健康相談が行われることが望まれます。わが国の実情に適した個別健康相談の仕組みや相談項目の選定などを厚生労働省研究班が現在検討中です。「成育医療等基本法」が成立することで、こうした仕組みが制度として運用される日が来ることを願っています。

10周年に寄せて

研究支援の立場から

明日の子どもたちの
健やかな笑顔のために
～乳幼児栄養研究への期待を込めて～

アサヒグループ食品株式会社
代表取締役社長

尚山 勝男

この度は、公益財団法人小児医学研究振興財団設立10周年誠にありがとうございます。

「和光堂」の歴史は、日本の小児科の歩みとともに始まりました。日本の小児科の生みの親でもある弘田長博士の「栄養不良で亡くなる子どもたちを救いたい」との思いから明治39年(1906年)に設立した和光堂薬局を起源に、日本初の育児用粉乳やベビーフードを開発するなど、乳幼児の栄養の分野で小児科の先生方とともに歩んでまいりました。現在はアサヒグループ食品株式会社として、創業時の志を継ぎながら、『ずっと、赤ちゃん品質』のブランドコンセプトのもと、取り組んでおります。

現代においても「乳幼児の栄養」は、子どもたちの健やかな成長を支える大切なテーマであり、社会の変化とともに生まれる新たな課題に私共も先生方とともに真摯に取り組んでまいり所存でございます。その一助といたしまして、昨年度より「乳幼児の栄養に関する研究」に対して研究助成をさせていただいております。研究の成果が明日の子どもたちの健やかな笑顔に繋がることを願っております。

最後になりましたが、公益財団法人小児医学研究振興財団の益々のご発展を祈念するとともに、引き続き先生方のご指導・ご鞭撻を賜りますよう、今後ともよろしくお願い申し上げます。

研究支援の立場から

研究開発型企業を目指して
～小児医学研究に期待すること～

JCRファーマ株式会社
代表取締役会長兼社長

芦田 信

財団設立10周年おめでとうございます。

当社は「医薬品を通して人々の健康に貢献する」という企業理念のもと、常に他社より「一歩前に出る」独自技術開発と製品創製に挑戦しています。成長障害における治療薬の新適応や連日投与の負担感を軽減するための新規デバイスの開発に取り組み、血液疾患領域においては日本初の他家の再生医療等製品を創出いたしました。この製品は、造血幹細胞移植後の急性移植片対宿主病と闘うお子さんにも使われております。

当社では、創業以来培ったバイオ技術を用いた血液脳関門通過型の酵素製剤により、希少難病であるライソゾーム病と闘うお子さんやそのご家族への一助となるべく、革新的な研究開発に取り組んでおります。現在、ライソゾーム病の一疾患であるハンター症候群治療酵素製剤は国内で臨床第Ⅲ相試験をおこなっております。

このような医薬品開発は小児科領域の先生方の御尽力なくしては成り立ちません。

小児希少難病といったアンメットメディカルニーズ領域での治療法の開発には小児医学研究の発展が不可欠です。末筆となりますが、小児医学研究の益々の発展を祈念いたしまして、お祝いのご挨拶とさせていただきます。

留学・論文支援の立場から

小児精神医学専門家の
育成支援事業を通して

日本イーライリリー株式会社
筋骨格・中枢神経事業本部 本部長

加納 香

この度は、貴財団が設立10周年を迎えられましたことに、心よりお祝い申し上げます。

私たち日本イーライリリー株式会社は、「世界中の人々のより豊かな人生のために、革新的製品に思いやりを込めて」をプロミスに掲げて日々の事業活動に取り組んでおり、私たちの活動のすべては、「患者さんのために」を起点にしています。そして、「小児の健康と福祉の向上に寄与すること」を目的とする貴財団の活動主旨に賛同し、若手小児科医及び小児医学研究者の育成・支援事業に微力ながら参画して参りました。イーライリリー海外留学フェロウシップ、並びにリリーアワード(優秀論文表彰)という貴財団との2つのパートナーング事業が、将来を担う小児科医、研究者の皆様の研究促進や最新知見習得の一助となり、ひいては、小児患者さんのより良い治療アウトカムに少しでも貢献できていれば幸いに存じます。末筆ながら、貴財団の今後益々のご発展を祈念致しております。

留学体験記

アメリカ国立衛生研究所(NIH)留学報告

私は平成23年度小児医学研究振興財団の海外留学フェロウシップの御援助の下、2013年5月から2016年6月まで、アメリカ国立衛生研究所(NIH)に属する国立ヒトゲノム研究所(NHGRI)に研究留学させて頂きました。

私の留学先であるMuenke Groupは、中枢神経系の発生の異常に起因する先天異常を主要テーマとする研究室です。特に全前脳胞症(Holoprosencephaly, HPE)に関しては、1996年にHPEの最初の疾患責任遺伝子としてSHHを報告して以降、世界のHPE研究を牽引してきました。

私は京都大学先天異常標本解析センターとの共同研究により、同センターが所蔵する「京都コレクション」からHPE標本143例を抽出し、

東北大学大学院 医学系研究科
発生・発達医学講座
小児病態学分野

阿部 裕



臨床的解析を行いました(Anat Rec (Hoboken). 2018; 301(6): 973-986.)。京都コレクションは器官形成期ヒト胚子・胎児標本とその臨床データから成り、1961年以来収集された標本数は40,000例以上に及び、日本における子宮内胚子・胎児の動態を表すバイアスの少ない縮図として非常に貴重なコホートです。解析の中で、私は母体のアルコール摂取、母体の流産・死産歴、妊娠中の性器出血がHPEの発症と関連することを明らかにしました。今後はTargeted next-generation sequencing (NGS) assay による分子遺伝学的な診断基盤を確立することにより、日本人におけるHPEの遺伝学的背景を明らかにすると同時に、日本国内のHPE患者の臨床症状を集積し、遺伝子型と表現

平成30年度事業 募集要項

研究助成金

【小児科領域全般・乳幼児栄養に関する研究】

1) 助成対象研究課題

① 小児科領域全般に関する研究

- ア 新しい感染症や急性疾患の診断・治療に関する研究
- イ 小児の難病疾患、慢性疾患の本態解明と治療に関する研究
- ウ 生活習慣病の予防に関する研究
- エ 遺伝子治療など高度先進的医療の開発のための基礎的研究
- オ いじめ、虐待、拒食、不登校など子どもの心のケアや心身症に関する研究
- カ 生命倫理など社会的問題に関する研究
- キ 国際医療協力の基盤となる母子保健に関する研究
- ク その他、子どもの健康に関する研究

② 乳幼児栄養に関する研究

2) 助成金額

① 小児科領域全般に関する研究：1件200万円以内、総額700万円

② 乳幼児栄養に関する研究：2件程度、総額100万円

3) 助成対象者

① 小児科領域全般に関する研究

過去3年間に於いて当財団の研究助成金を受けていない者で、次に該当する者とする。

小児医学の基礎的及び臨床研究に従事し、平成30年12月31日時点で50歳未満の日本国籍を有する小児科医・小児医学研究者とし、若手の小児科医及び小児医学研究者を優先することから、原則として教授及び研究機関等の部長級以上の者を除く。

② 乳幼児栄養に関する研究

小児栄養の基礎的及び臨床研究等に従事し、平成30年12月31日時点で50歳未満の日本国籍を有する小児科医・小児栄養研究者とし、若手の小児科医及び小児栄養研究者を優先することから、原則として教授及び研究機関等の部長級以上の者を除く。

3) 応募資格：

原則として受賞後1年以内に出国し、海外の研究機関等において、一定期間(原則6カ月以内)研究や研修に従事できるもので、次の条件を満たしている者とする。

- ① 日本国籍を有するわが国の大学、医療機関、研究機関に所属する小児科医師および小児医療研究者。
- ② 具体的な研究または研修計画を提示できること。
- ③ 研究終了後6カ月以内に研究報告書の提出ができること。
- ④ 平成30年12月31日時点で40歳未満の者。

※応募は1施設から1名とする。【所属長(大学の場合は学部長)推薦】

※過去の受賞者の申請は不可。

応募方法

当財団の定める交付申請書(当財団URLよりダウンロード)に必要事項を記入し、下記宛に送付。

締切:平成30年11月30日(金)必着

優秀論文アワード

選考要項

アワードの概要

- ① 下記機関誌に掲載された、優れた研究論文を表彰する。
- ② 選考は各機関誌を発行する学会から優秀論文として推薦を受け、当財団の選考委員会が選考を行い、1件30万円、総計4件120万円を筆頭筆者へ授与する。
- ③ 平成30年12月31日時点で原則として、満40歳未満の執筆者を対象とする。

選考対象誌(平成30年1月~12月発行)

- ① 日本小児科学会機関誌
「日本小児科学会雑誌」、「Pediatrics International」から各1編
 - ②-1) 日本小児神経学会機関誌
「脳と発達」または「Brain&Development」から1編
 - ②-2) 日本小児精神神経学会機関誌「小児の精神と神経」または日本小児心身医学会機関誌「子どもの心とからだ」から1編
- ※ ②-1)、②-2)の優秀論文はイーライリリーアワードとして表彰する。

選考結果発表

平成31年3月中旬に当財団ホームページ上で発表のうえ、平成31年第122回日本小児科学会学術集会会期中に表彰する。

イーライリリー海外留学フェロースhip

【発達障害に関する研究】

1) 海外留学奨学金：2件 180万円/総額 360万円

2) 対象研究：

発達障害に関する基礎的及び臨床的研究

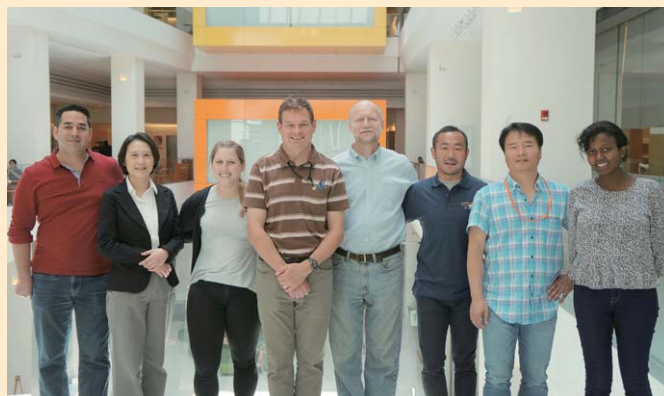
(発達障害の定義:精神遅滞、学習障害、運動能力障害、コミュニケーション障害、広汎性発達障害、注意欠陥/多動性障害など)

型及び環境要因の関連を解析することにより、表現型を修飾する因子を明らかにしていきたいと考えています。

Muenke Groupの研究室の雰囲気は、個々を尊重し自由でフレキシブルであり、メンバーも皆やさしく、非常に居心地の良い環境で仕事することができました。アメリカ社会は異文化を尊重し、他者にもフレンドリーで、家族との時間を大事にし、社会全体が子どもを守ろうとしているように感じました。ワシントンDC郊外のメリーランド州ベセスダにあるNIHのメインキャンパスは生活の利便性もよく、自然が非常に豊富でした。アパートの家賃は高めでしたが、ベセスダの雰囲気が気に入り、多少無理をしながらも3年2ヶ月の間、ベセスダに住み続けました。

海外での留学生活は非常に苦勞が多いことも事実です。しかし、実際に身を置いてみて、驚く程自分の世界は広がりました。研究や言語にとどまらず、異なる文化や多様性に学ぶことも多く、充実した日々を、楽しく常によい刺激を受けながら過ごすことができました。また本財団助成に御援助頂き、本当に有難く大きな励みになりました。帰国後も一小

児科医として、医療の発展に微力ながらも貢献できればと思います。末尾となりましたが、本財団助成による小児医学研究の更なる発展を期待し、報告とさせていただきます。



右から3番目が筆者

平成30年度 市民公開講座 親子の係りと子どもの発達 ～子どもの脳を育む～

プログラム

座長：奥山眞紀子(国立成育医療研究センターこころの診療部長)

講演① 児童相談所の開設を見据えた新たな親子の係りへの支援

長谷川 哲夫(世田谷区子ども・若者部児童相談所開設準備担当課長)

講演② 親子の係りが脳に与える影響

友田 明美(福井大学子どものこころの発達研究センター教授)

講演③ スマホ時代の子育て(スマホの利用と弊害)

氏家 武(氏家記念こどもクリニック院長)

講演④ 親子の係りへの支援の実際

井上 登生(井上小児科医院院長)

日時：平成30年11月25日(日)
13:00~16:00

場所：東京都世田谷区烏山区民会館
(京王線 千歳烏山駅下車徒歩1分)

本年度の市民公開講座は、現在申込を受け付け中です。

賛助会員の皆様は、後日財団ホームページで講座の記録動画を閲覧いただけます。

賛助会員(個人)

※敬称略 五十音順

- | | | | | | | | | |
|--|---|---|---|--|---|---|---|---|
| 赤司 俊二
旭 壮一郎
安次 馨
東 寛
熱田 裕
雨宮 伸
鮎沢 衛
新垣 義夫
荒川 浩一
有賀 正夫
飯塚 幹夫
五十嵐 隆
池本 博行
石井 尚吾
石井 正浩
石崎 朝世
位田 忍
井田 博幸
井田 孔明
板橋家 頭夫
市田 路子
逸見 陸心
伊藤 悦朗
伊藤 秀一
伊藤 未志
伊藤 進
伊藤 辰夫
伊藤 保彦
伊藤 雄平
稲垣 由子
稲葉 博士
井原 健二
井原 幸子
今村 秀人
今村 俊彦
岩田 敏力
岩元 二郎
内田 正志
内田 祐子 | 字理 須厚 雄
江口 尚彦
衛藤 隆
衛藤 義勝
遠藤 文夫
小穴 慎二
老田 礼子
尾内 一信
大賀 正一
大川 洋二
大澤 真木子
大久保美登里
太田 節雄
太田 秀臣
大塚 晨
大西 正純
大野 耕策
岡田 純一
岡部 一郎
岡本 博文
小川 俊一
沖 潤
小口 学
奥山眞紀子
小栗 絢子
小田 慈
小田切美知子
小堂 欣彌
小野 厚
小野 靖彦
賀川 治美
加治 正行
勝部 康弘
加藤 達夫
賀藤 均
加藤 誠
加藤 正彦
加藤 陽子
門脇 弘子 | 金子 一
加納 芳郎
鴨下 和子
河 敬世
河西 紀昭
川口 浩史
神崎 晋
貴田 岡節子
北中 幸子
北本 育子
木野 稔
木村 隆
日下 聡
楠田 浩一
楠原 浩一
工藤 協志
久保 政勝
倉辻 忠俊
郡 健一
小池 晶一
小泉 ひろみ
河野 幸治
河野 陽一
香美 祥二
神山 潤
幸山 洋子
興梠 ひで
児玉 浩子
後藤 彰子
後藤 敦子
後藤 雄一
小林 繁一
小林 正夫
小山 典久
小山 佳紀
斎藤 博久
嵯峨 六雄
酒井 規夫
酒井 康成 | 坂本 由美
佐久間弘子
櫻井 嘉彦
佐々木 望
四方あかね
重松 陽介
柴田 瑠美子
嶋田 泉司
清水 俊明
下条 直樹
下村 国寿
白井 真美
白石 裕比湖
白川 嘉継
末延 聡一
杉本 徹
杉本 久和
鈴木 敏之
鈴木 英太郎
須磨崎 亮
清野 佳紀
関 秀俊
瀬島 俊夫
高島 協
高橋 孝雄
高橋 勉
滝沢 琢己
滝田 順子
宅見 徹
竹重 博子
武知 哲久
竹広 茂子
田島 剛篤
田中 英高
玉井 浩
田村 喜久子
田村 正徳 | 千田 勝一
長 和彦
長 秀男
塚田 明子
土屋 與之
堤 裕幸
鶴澤 正仁
寺井 勝
寺門 道之
寺田 春郎
寺本 貴英
寺本 創
戸 秀文
外 富沢
永井 崇雄
永尾 尚子
永島 哲俊
中村 龍俊
中原 智子
成田 雅美
新津 直樹
西澤 嘉四郎
新田 康郎
布井 博幸
橋本 和廣
長谷川 奉延
長谷川 行洋
長谷川 俊史
長谷川 茉莉
長谷川 美香
羽田野 爲夫
服部 元史
馬場 常嘉
早川 依子
原 寿郎
原 正守
張田 豊
波呂久美子
春田 恒和 | 日暮 眞
平尾 敬男
平山 雅浩
廣瀬 伸一
廣津 卓夫
福重 淳一郎
深澤 隆治
福永 慶隆
藤井 達哉
藤枝 幹也
藤岡 雅司
藤木 伴男
藤田 弘子
藤野 滋
二村 真秀
船戸 正久
船曳 哲典
舟本 仁一
別所 俊男
保坂シゲリ 文雄
星加 忠孝
保科 弘毅
新田 創
細井 玲子
堀川 喜平
前多 治雄
前田 美穂
正木 拓朗
松井 陽
松尾 宣武
松尾 雅文
松平 隆光
松永 伸二
丸山 剛志
丸山 博
三池 輝久
水谷 修紀
南沢 享
三牧 正和 | 宮島 祐
宮代 英吉
麦島 秀雄
村瀬 雄二
村田 要一
本村知 華子
元山 隆祥
森 浩幸
森内 友宏
森川 昭廣
森口 直彦
森下 秀子
守田 利貞
森田 友明
森脇 浩一
師井 敏裕
八木 仁一
安田 寛二
柳川 幸重
柳澤 正義
藪内 弘
山内 穰
山川 毅
山形 崇倫
山口 清次
山下 薫
山下美代子
山城 雄一郎
山田 恭聖
山野 恒一
山本 圭子
山本 威久
山本 玉路
山脇 英範
横田 俊平
横田 進
横谷 義正
横山 和之
吉岡 | 吉岡三恵子
吉田 康子
吉田 ゆかり
芳野 信
吉原 重美 | 脇口 宏
和田 和子
渡邊 信雄
渡辺 博
渡部 礼二 |
|--|---|---|---|--|---|---|---|---|

賛助会員(法人)

※敬称略 五十音順

- アサヒグループ食品株式会社
- エーザイ株式会社
- MSD株式会社
- 杏林製薬株式会社
- Story of the tortoise株式会社
- 第一三共株式会社
- 田辺三菱製薬株式会社
- 帝人ファーマ株式会社
- 株式会社ナチュラルサイエンス
- Meiji Seika ファルマ株式会社
- 医療社団法人 メディカル・プロ

協賛企業

※敬称略 五十音順

- アサヒグループ食品株式会社
- アステラス製薬株式会社
- JCRファーマ株式会社
- 武田薬品工業株式会社
- 中外製薬株式会社
- 大日本住友製薬株式会社
- 日本イーライリリー株式会社
- 日本マクドナルド株式会社
- ノボルディスクファーマ株式会社
- マルホ株式会社

寄附(個人)

横山 茂

当財団の事業は、賛助会費及び寄付金で実施しています

賛助会費は、所得税控除または税額控除を受けられます。

個人 1口/年 10,000円 法人 1口/年100,000円

ご入会・会員のご所属先変更などのご連絡は、下記で承っております。

事務局



公益財団法人 小児医学研究振興財団
JAPAN FOUNDATION FOR PEDIATRIC RESEARCH

〒110-0015 東京都台東区東上野3-32-2 廣瀬ビル4B

TEL (03) 5818-2601 / FAX (03) 5818-2602

e-mail: shouni-iken@jfpedres.or.jp

http://www.jfpedres.or.jp/

「子どもたちの世紀」について

News Letter題字の「子どもたちの世紀」は、日本小児科学会が創立百周年を迎えた当時の厚生大臣であられた小泉純一郎先生に揮毫をお願いしてご快諾頂き、総理大臣ご在任中にお書きいただいたものです。

編集後記

当財団事務局の人事異動をお知らせいたします。過去5年間、事務局局長として、財団の財政基盤の安定化にご尽力いただいた稲葉事務局局長は、平成30年8月末日、退職になられました。過去5年間の稲葉博士氏の献身的な職務に感謝申し上げます。

後任には、病院事務の経験がある稲垣治氏が着任されました。また、事務量の増加に対応するため、国立病院での豊富な経験を持たれる、瀬戸恵美子氏が着任されました。老田礼子氏と同様、会員各位のご協力、ご支援をお願いいたします。(常務理事 松尾 宣武)